聖泉大学図書館広報

The Seisenians No.33

2019年3月1日　発行　　編集・発行：聖泉大学図書館

目　次

＊　「利用したくなる図書館、利用しやすい図書館を目指して」　・・・1
図書館長　坂田　直美
＊　私の薦めるこの一冊　・・・2
＊　聖泉大学図書館の魅力　・・・5
＊　私と本・私と図書館　・・・6
＊　平成３０年度図書館アンケート結果報告　・・・7
＊　平成３０年度図書館設備の導入・改善について　・・・8
＊　平成３０年度学生図書委員・図書委員会メンバー・図書館職員と
図書館学生アルバイトからの一言メッセージ

利用したくなる図書館、利用しやすい図書館を目指して

図書館長（看護学部 教授）　坂田　直美

平成30年4月20日に、私立大学図書館協会西地区部会京都地区協議会の研究会がメルパルク京都で開催され、本学が当番校を務めさせていただきました。

その時の講演の１つが滋賀県立図書館前館長の國松完二氏による「近年の大学生の図書館利用について～滋賀県立図書館の利用推移から～」で、2001年度と2016年度の公共図書館利用者数の変化を紹介されました。それによると、大学生世代の減少が最も顕著で約10分の１に減少していることに驚きました。この傾向はどの大学図書館でも悩みの種で、どうしたら学生にとって利用したくなる図書館にできるのか、また、これからもっと進むであろう情報化時代において大学の図書館の存在価値をどのように創造していくのか、これが大学図書館に共通した課題であり、大学間や地域と連携し、知恵と工夫を出し合って新たな図書館のあり方を探っていく必要があることを実感いたしました。

ところで、平成30年度の図書委員会においては、前任の図書館長でありました小山先生が、「学生とともに図書館の活性化」を目標に、平成27年度より取り組んでいらっしゃったことをベースにして活動を進めてきました。平成28年度から始まった学生図書委員会は学生へのアンケート調査を実施し、その結果を図書館整備や利用に反映させておりますし、月に2回昼休みに実施されている本屋さんの学内販売のアナウンスを引き受けてくれております。また、今年も無事に学生から学生に発信する図書情報であるKnowledge Friendsの第2号も間もなく発行できる運びとなりました。学生図書委員の皆様は忙しい学業の傍ら本当によく頑張ってくれていると感謝しております。

また、平成30年度より土曜日開館を毎週土曜日9時から17時までに変更し、土曜日の月平均利用者数は、平成29年度の12人に対し、今年度は36人と約3倍に増えており、土曜日開館が図書館利用者数の増加につながってきております。また、地域の方や看護職の方の利用も徐々に増えていることも嬉しいニュースです。その他に、これまでほとんど利用されていない新書版の選定方法の見直しや、視聴覚資料の貸し出し方法の見直し、学習用漫画の試験的導入、閲覧スペースの照明器具の取り換えなどを行い、少しでも利用しやすい図書館づくりに向けて取り組みました。

利用したくなる図書館、利用しやすい図書館を目指すためにはまだまだ多くの知恵と工夫が必要です。これからも教職員、学生、地域の皆様と力を合わせて取り組んでまいりたいと思います。

私の薦めるこの一冊

大学院の先生にお薦めの図書を紹介していただきました。

『死者に見守られて
癌の夫を看取った妻たちのライフストーリーから』

笛木鮎子 著　クオリティケア（2016）

大学院准教授
安孫子 尚子

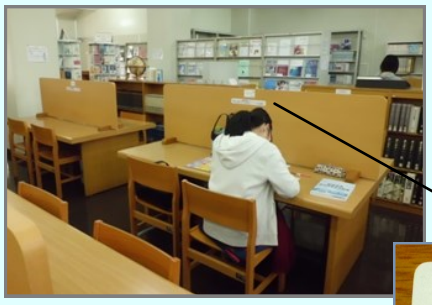
本書の題名には、悲しさや寂しさを感じますが、私はすごく心が動かされて手に取りました。私は、看護師として勤務した病院で、生きることへの執着をもち、壮絶な闘病生活を過ごし亡くなった胃がん患者さんに出会いました。また、実父の自宅での看取りの経験は、私の中にある「生」と「死」が混ざり合うような感覚になり、もやもやした気持ちで数年間を過ごすことになりました。本書を読み進めると、自分の中の「生きること」と「死ぬこと」が整理され延長線にあることを感じることができました。

本書は、壮年期の癌の夫を看取った著者自身の経験と、同様の体験をした3人のご遺族のインタビューを質的帰納的に分析し、死別は妻にとって何をもたらし、死別の悲嘆を乗り越えるための策はどのようなものがあるのかを丁寧に表現しています。例えば、死別の悲嘆は、遺族は亡き人と再会できない現実を理解はしているけれど、その人への思いが続くことによって起こり、悲嘆感情を和らげる方法には、遺族が思い出を語り、第三者に充実した日々であったことを認めてもらうことであり、それは心の支えにもなる。特に、死が迫る日々を共に過ごした看護職と語り合えることは、遺族のどうしようもない心の痛みを打ち明けられる唯一の存在であり、死の意味づけを一緒に考えグリーフケアとなります。

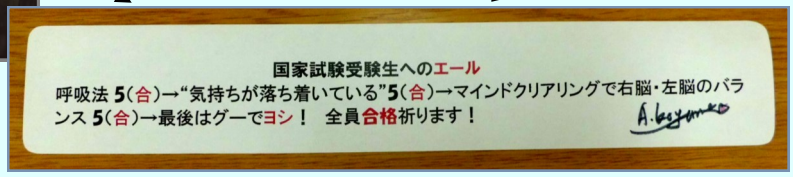
この本を読み終えた私は、今も実父が「いないけどいる」という感覚を「共にいる」そして「見守られている」という思いに至りました。本書は、著者自身の経験を研究の動機づけとして取り組まれた修士論文が軸になっています。多くの文献や理論にも触れることができますので、興味のある方はぜひ読んでいただきたいと思います。

教員より紹介がございました図書は、図書館入口付近に展示していますので、ぜひ、この機会に手に取ってご覧ください。

国家試験前の4年生が学習する姿　2019/2



学長 小山敦代教授より、国家試験受験生へエールを頂きました。



私の薦めるこの一冊

別科助産専攻の先生にお薦めの図書を紹介していただきました。

『目の見えない人は世界をどう見ているのか』

伊藤亜紗 著　光文社新書 （2015）

別科助産専攻准教授
井上 佳子

もう〇十年も前になりますが、看護学生時代の演習で、アイマスクをして（学生A）、介助者（学生B）と歩く体験をしました。目の不自由な方の日常を想像し、またその支援のあり方を理解するために行われたもので、今よりも素直な10代のわたし（笑）は、対象の方の気持ちになって考える必要性を実感しました。しかし、月日のいたずらか、目の不自由な方への支援は、そういったことだけで理解できるのか（目の不自由な方の理解の入門編では、いい体験だと思います）ということを折々に感じていました。目が不自由な方は、不自由である中での研ぎ澄まされた感性や感覚の世界があるはずで、そういった状態になって見える世界はどういったものなのでしょうか。また、本当に必要な支援はどういったことなのでしょうか。

私たちが得る情報の8～9割は視覚に由来すると言われており、五感のなかで特権的な位置にあるとされています。事実、近年のスマホをはじめとする情報社会は、すべて視覚に頼っています。こういった現実を踏まえ、目の不自由な人の「見えない世界」について想像するとき、目をつぶってみればわかるのかということについて、筆者は、目をつぶることと見えないことは全く違うと明言し、４本脚と３本脚の椅子に例えてわかりやすく説明しています。また、目をつぶることでの想像は「見えている状態を基準として、そこから視覚情報を引いた状態」であり、視覚抜きで成立しているものではないと述べています。

本書は、「自分と異なる体をもった存在を実感として感じてみたい」という、かつて生物学者を目指していた筆者ならではの好奇心から展開されており、福祉的な視点でかかれたものではありません。「見える人」「見えない人」という違いをいい意味で面白がる視点は、健常者が障害者を助けるといった関係や優劣のものではなく、フラットで温かいもののように感じられます。また、目の見える人が、いかに視覚を通じての情報に影響され、ときには操られているかの問題についても考えさせられます。

目の見えない方の理解やハンディキャップのある方への支援について興味のある方、また、違いを面白がることができる方、自分の想像力に自信のある方（？）に是非読んでほしい1冊です。

ー図書館職員からこんなことありましたー

カウンターやレファレンスの際に「いつもありがとうございます。」、「やっぱり、聞いてよかった。」と言って頂けると、仕事にやりがいを感じます。気軽に声を掛けてくださいね。

「図書館でパソコンが使えるんですね！」、「実習中って長く借りられるんですね！」と驚かれることがあります。皆さんにとって便利な利用法があるかも知れないので、気軽に来てもらいたいです。

たまにですが、パソコンを借りられる時に「図書館で、印刷できますか？」と聞かれることがあります。図書館でも印刷できますので、気軽にパソコンを借りに来てください。

私の薦めるこの一冊

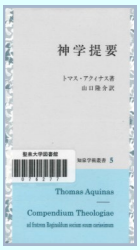
人間学部の先生にお薦めの図書を紹介していただきました。

『スマホゲーム依存症』

樋口 進 著　内外出版社 （2018）

人間学部講師
小澤 克彦

スマートフォンやタブレットパソコンが世に出たときは、神様のツールのようにもてはやされ教育系の学会でも使わないと時代遅れのように発表がされていた。それが今はすっかり悪者。なぜ。電車に乗って周囲を見ると多くの人がスマホを手にしています。小さな画面から片時も目を離さず、指先は忙しそうに画面を触っています。いつ、どこにいてもスマホゲームを半ば無意識にしてしまう。そんな人はなぜ手の中の単純なゲームに熱中するのでしょうか。スマホゲームの世界に深入りすれば間もなく仕事のパフォーマンスや学力の低下に直面することになるでしょう。体力や気力を切り崩し、毎日の生活に焦りや無力感さえ覚えながら、多くの人は「自分はスマホの使用をコントロールできている」と思い込んでいます。スマホのしすぎと言われると、反論・逆ぎれすることもあります。脳の中では何が起こっているのでしょうか。この本を読んでもあなたはスマホを使い続けますか。



『神とは何か　24人の哲学者の書』

K. フラッシュ 著　中山善樹 訳　知泉書館 （2018）

『トマス・アクィナス ―人と著作―』

J.-P.トレル 著　保井亮人 訳　知泉書館 （2018）

『神学提要』

トマス・アクィナス 著　山口隆介 訳　知泉書館 （2018）

人間学部講師
山口 隆介

中世に『24人の哲学者の書』という著者不明の謎に満ちた文献が存在し、中世の神学者、哲学者に影響を与えていました。その日本初訳が一冊目の本『神とは何か』です。神について宗教の権威による定式ではなく、哲学的な思索の到達点にして源泉たりうる24の定義を列挙するという内容で、特定の宗教を信じていない人たちにも手に取って読んでほしい本です。哲学史に詳しい人が読むなら、1つ目の定義にモナドという単語が出てくることに驚くことでしょう。この書が中世だけでなく近世の哲学者ライプニッツにまで影響力を有していたことが強烈に示唆されています。日本の中世哲学研究の世界ではほとんど注目されてこなかった文献ですが、この訳が出たことでこの文献の存在が常識になるでしょう。日本語としては初訳です。訳者は山口の恩師で、教会を騎士たちが攻めている絵が表紙に使われているのは、教会の権威に果敢に立ち向かう思索の象徴としてであると伺っています。

2冊目の本はゼミの後輩で博士号を持っている在野の研究者による翻訳です。原書はフランス語で、トマス・アクィナス研究では当代随一の学者がトマスの全体像を描いた著作です。この訳のおかげで最前線のトマス理解全体に日本語で容易にアクセスできるようになりました。これも日本初訳です。

3冊目の本は拙訳で、日本初訳です。学生諸君への授業や対話を通じて深めた思索が註と解説に反映しています。今とこれまでのすべての聖泉大学学生に心から感謝いたします。

これら3冊はまったくの偶然ですが、昨年の10月中という同時期に出版されました。神の御摂理かもしれません。

私の薦めるこの一冊

看護学部の先生にお薦めの図書を紹介していただきました。

『こんな夜更けにバナナかよ　―愛しき実話―』

渡辺一史 著　文藝春秋（2018）

看護学部助手
馬場 好恵

この本のタイトルは、昨年に映画化されたことから、みなさんも耳にされたことがあると思います。主人公の鹿野さんは、「進行性筋ジストロフィー」という神経難病を患っています。この疾患は、全身の筋肉が衰えていく病気で、誰かの力がなくては生活ができなくなり、進行すると自力で呼吸ができなくなり人工呼吸器を使用した生活を余儀なくされます。私は、脳神経外科病棟で働いていた頃に、鹿野さんと同様の病気の患者さんを担当した経験があります。この本を読み進めていく中で、主人公である鹿野さんを通して、当時の色々な思いが蘇ってきました。

文中で度々、鹿野さんは、「自分でやれる事は自分でやらなきゃ」と話し、これを『「自立生活」という道』として表現しています。この「自立」というのは、自分でものごとを選択し、自分の人生をどうしたいかを自分で決める事、そのために他人や社会に堂々と助けを求める事でした。鹿野さんは、病院ではなく自宅での生活を選択し、自らボランティアを集め、多くの支援者の手を借りながら生活をしていきます。最初の頃、ボランティアの多くは、鹿野さんの訴えをわがままだと捉え、苛立ちを感じています。しかし、次第に鹿野さんの訴えは生きていくために必要なこと、必要な時間であることを理解し始めます。

私はこの本を読みながら、人生の楽しみ方、苦難の乗り越え方など、鹿野さん、そして、鹿野さんと関わる人たちが、それぞれの背景と個性を背負って、生死というギリギリのところで懸命に向き合っている姿に、「私だったら、こんな時どう考えるか」という問いを繰り返していました。医療職に携わるから見えてくること、人と関わる仕事をしているからこそ考えなくてはいけないことをこの本は教えてくれているように思います。ぜひ、皆さんも鹿野さんの生命をかけた生き様に触れてみてください。

聖泉大学図書館の魅力

一般利用者　田井中　治一郎

自宅の近くに市立図書館があり、毎日のように足を運ぶ。しかしながら土曜と日曜が開館のため、代わりに月曜と火曜が休館日になる。私は閉ざされた２日間が、以前から憂うつでならなかった。

救ってくれたのが聖泉大学である。「月曜日も火曜日も朝早くから行けるなんて」。大学にすればごく普通のスケジュールだろうけれど、私には途方もなく魅力的だった。貴大学の図書館を利用させていただく大きな理由であることは言うまでもありません。

副次的な魅力として、素晴らしいロケーションを挙げたい。窓に目をやれば、のどかな田園風景が広がり左手には宇曽川の堤が見える。春には桜がきれいに咲くのだろう。遠くを望めば鈴鹿の山々が連なっている。景色を眺めていると別世界へ来た感じがして、気持ちが和む。

いまーつの副次的な魅力は、読書に没頭できる点にある。「今日はこの本を読破したい」と決め込んだら、本当にできてしまう。今までに経験したことのない成果に驚く。図書館の雰囲気が、私の波長にぴったり合うのかもしれない。非科学的な理由だけれど、そんな気がする。

これからもずっと利用したいと思いますので、よろしくお願いいいたします。

私と本

人間学部 4年生
森居　恵子

私が本を本格的に読み始めたのは、はやみねかおるさんの『怪盗クイーン』シリーズに出会ったことからです。それまでは本なんて頭痛くなる、読めん！と思っていました。ましてやシリーズ本なんて考えてもいなかったのですが、その時ばかりは学校の図書館に連日通ったことを覚えています。・・ですが、本を読んだところで何かわかったとか、すごいということはありません。仲間がいなくて寂しい時期に江戸川乱歩を読んでいた時期がありました。

私にとって本を好きになるということは恋に似ています。きっかけは些細であっても夢中になると止められなくなることがあります。また、本は参考書になることがあります。漫画で『キングダム』や『三国志』を読んで中国史を学び、『あさきゆめみし』を読んで源氏物語を学んで、『ベルサイユのばら』でフランス革命を学びました。アニメ作品の原作を読むことも好きで今、『転スラ』の原作を読んでいますが、あの壮大な物語を理解するには本を読むことが一番だと思います。私は本を読むことで自分のアイデンティティが形成されていったといっても過言ではありません。

『ダイブ』という本では、飛び込みの世界の話が主人公の目線で描かれています。主人公はこれ以上自分の飛び込みがうまくならないのではという思いと、飛ばなきゃという焦燥感でごちゃごちゃになっているようでした。しかし、そこから殻を破り、飛び込みという怪物に挑んでいく主人公の姿に感動しました。私は主人公と共に成長できたような気分になりました。人生でこんなに、ハラハラドキドキすることがあるでしょうか。本に出逢うことで、様々な経験ができます。

ぜひ、皆さんも一度は本の世界に飛び込んでみてください。

私と図書館

看護学部 2年生
松林 恵里華

私が図書館を利用する理由は、友人にテストや試験勉強、課題の調べ物をする時に利用するとよいと言われてからです。しかしそれが少し変わったのは2年生になり図書委員になってからです。図書館を学生に使いやすくするために活動を始めてから図書館に通うことが増え、本に触れる機会が増えました。

また、学生選書を経験したことで、図書館が勉強目的以外に普通に読書ができる場所であると実感できました。また、大学に入ってから読書をする機会が減ってしまった私でしたが、図書館に行くことが楽しみになりました。その楽しみは自分のお気に入りの本を読むことができた時です。そして図書館に行くようになって一番良かったことは、意見箱の存在を知ったことです。そこで自分が図書館に対して直して欲しいこと、思ったことを書くことができることを知ったことでした。自分が委員会で考えていることだけでなく、勉強に利用している時、自分の好きな本を読む時に、図書館に伝えられる手段があると分かったことが嬉しいと感じました。

これから図書館を利用していく上で、私の経験が皆さんの参考になるといいなと思っています。

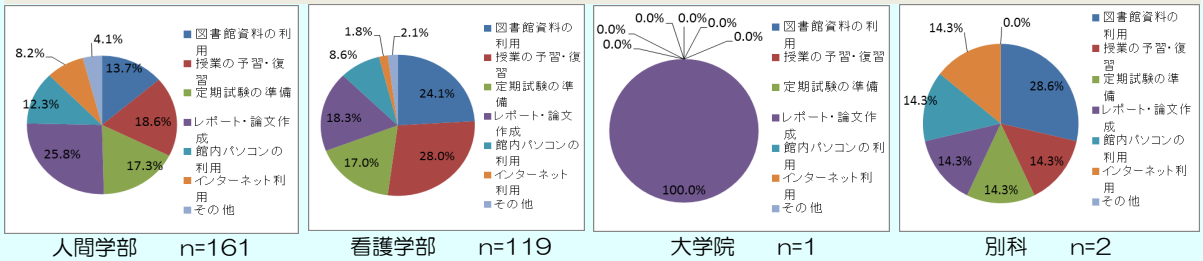
学生選書の展示

図書館に関する
ご意見がありましたら
お聞かせ下さい。

平成30年度
図書館アンケート結果報告

全学生を対象にmanaba（マナバ）を利用して実施したアンケートについて、結果の一部をお知らせします。
（回答者283名・回収率51.9%）（左から人間学部、看護学部、大学院、別科）

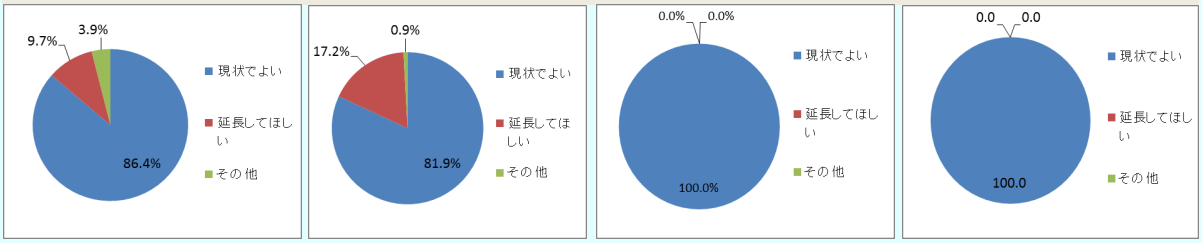
Q.4　図書館の利用目的



人間学部　n=161　　看護学部　n=119　　大学院　n=1　　別科　n=2

主な利用目的　人間学部：レポート・論文作成、看護学部：授業の予習・復習
大学院：レポート・論文作成、別科：図書館資料の利用

Q.9　現在の土曜日開館



人間学部　n=161　　看護学部　n=119　　大学院　n=1　　別科　n=2

平成30年4月より土曜日開館を毎週9時～17時までに変更したことによって、学生の満足度が昨年度より上がった。
（平成29年度　現状でよい　人間学部：76.9%、看護学部：66.4%、大学院27.3%、別科：16.7%）

図書館への要望・意見

充実させて欲しい資料

・病気がみえるなど人気ある図書はもう少し多めにおいてほしい。
・資格関連の過去問題集が全体的に古いのでもっと新しいものを導入するべきだと思う。

図書館より回答
　少しずつではありますが、人気がある図書の複本購入や資格関連の図書を購入しましたので、是非、ご利用下さい。

閲　覧　席

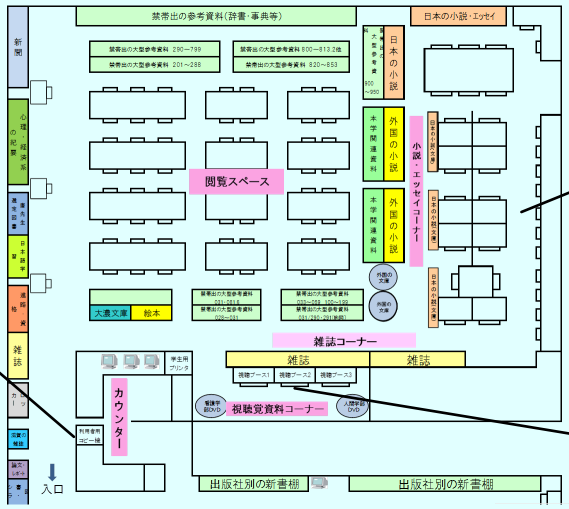
・細長い机で複数人座れるものより一人ひとり個別で座れる机を増やしてほしい。
・コンセントがないテーブルへのコンセントの増設してほしい。

図書館より回答
　個別机の増設は、以前から要望があるのですが、図書館空きスペースに限りがあり、現在のところ難しい状況です。電源の増設は、図書委員会でも検討し、前向きに進める方向で動いています。

平成30年度 図書館設備の導入・改善について

貸出カウンターの前に利用者用の図書館資料専用コイン式コピー機を導入しました。

利用者用コピー機



カウンターデスク側の照明をLEDライトへ交換を行い、明るい雰囲気になりました。

照明（LEDライト）

視聴覚資料コーナーの視聴ブースをリニューアルしました。学習にお役立て下さい。

視聴ブース

平成30年度 学生図書委員・図書委員会メンバー 図書館職員と図書館学生アルバイトからの一言メッセージ

〈平成30年度　学生図書委員からの一言メッセージ〉

・勉強や調べ物をする際は、ぜひ図書館へお越しください！	人間学部 3年　猪田 早規
・図書館はみなさんの学習・研究を全力でサポートしてくれますよ!!	人間学部 3年　山本 理沙
・本は私達をいろいろな世界へ連れていってくれます。あなたも頁をめくって物語の旅へ！	看護学部 2年　佐藤 綾子

〈平成30年度　図書委員会メンバーからの一言メッセージ〉

・大いに成長する、大いに学ぶ道は読書にある。	人間学部教授　李 艶
・１冊の本、良き友に出会おう。	看護学部准教授 磯邉 厚子
・図書館は、新しい世界が始まります。いろんな本を手にしてください。	人間学部准教授 脇本 忍
・読書はイメージする力が養われ、世界観を広げてくれます。	看護学部講師　森本 喜代美
・図書館は日々進化しています。新しくなったところを見つけに来ては。	人間学部講師　小澤 克彦
・学習・研究だけでなく、ちょっとした気分転換にも図書館を活用してください。	図書館司書　山川 直美

〈図書館職員からの一言メッセージ〉

・調べ物や自習のためだけではなく、気軽に図書館まで本を読みに来てください。	図書館司書　加納 香織
・小説やエッセイもあるので、勉強に疲れたら、気軽にご利用ください。	図書館職員　宮川 喜秀

〈平成30年度　図書館学生アルバイトからの一言メッセージ〉

・静かなので、勉強もしやすく、資料も沢山あります。ぜひ、ご利用ください。	人間学部 2年　岩永 朱音
・図書館には、いろんな国の言語で書いた本もあります。ぜひ、ご利用ください。	人間学部 3年　鄒 詩
・館内の環境がよく、冬は暖かく、夏は涼しく、いつも綺麗なので、ぜひ、ご利用ください。	人間学部 4年　姜 思義
・4年間お世話になりました！自分が勉強したい分野の本をリクエストできて嬉しかったです。	人間学部 4年　髙橋 衿那

ご来館をお待ちしております。

図書館職員

The Seisenians No.33 ： 聖泉大学図書館広報
発行日： 2019年3月1日
編集・発行：聖泉大学図書館

〒521-1123　彦根市肥田町720番地
Tel.0749-43-7513　Fax.0749-43-5201
E-mail:library@seisen.ac.jp